

令和4年度 第1回 甲賀市環境審議会 議事摘録

開催日時 令和4年(2022年)4月20日(水) 13時30分～14時55分

開催場所 甲賀市役所 別館 会議室101

出席委員(敬称略) 8名(欠席なし)
〔委員〕 竺文彦、中島仁史、金子利佳、石山利則、村木一志、
青木純一、高橋美香、大西智子

事務局(敬称略) 6名
〔市民環境部〕 澤田いすづ、地平勝弥
〔生活環境課〕 前田三嗣、相原功志、西野久俊、北村健太

傍聴 1名

会議次第

- 1 市民憲章唱和
- 2 委嘱状の交付
- 3 あいさつ
- 4 自己紹介
- 5 会長・職務代理者の選任
- 6 審議事項
 - (1) 甲賀市環境未来都市宣言(案)について
- 7 連絡事項
 - (1) 令和4年度の主な市の環境関連事業
 - ①甲賀市環境未来都市宣言
 - ②温暖化対策実行計画(令和5年度策定予定)
 - ③高齢者のごみ出し支援制度の開始
 - (2) 審議会開催予定
8月、12月、2月

配布資料

- ・委員名簿
- ・資料1 甲賀市環境未来都市宣言(案)
- ・甲賀市環境基本条例

会議内容

1. 市民憲章唱和（司会朗読）
2. 委嘱状の交付（個別交付は割愛）
3. あいさつ（澤田市民環境部長）
4. 自己紹介（委員・事務局）
5. 会長・職務代理者の選任
 - ・会長：委員互選により、竺文彦委員を選任。
 - ・職務代理者：会長から、中島仁史委員を指名。

6. 審議事項（会長進行）

会長＞ それでは進めさせていただきます。時間短縮での開催ですが、十分な審議をお願いします。まず、はじめの事項について、事務局からの説明をお願いします。

事務局＞（資料1・甲賀市環境未来都市宣言（案）について説明）

会長＞ 滋賀県内では宣言をしている市町が全国的に少なく、環境への意識が低いのではないか。

委員＞ 3月末時点で、全国で679、滋賀県では6つの自治体で宣言されている。各都道府県内の自治体数が異なり、一見したところ他より少なく見える。

会長＞ 「甲賀市環境未来都市宣言」というタイトルについてもまだ案ということです。まず、タイトルをどのように考えるか。ゼロカーボンを観点とするのか、環境全体ととらまえてこのタイトルとするのか、内容についてもどうするのか。エネルギーに絞ってしまうという考え方もある。

プラスチックごみゼロ宣言は、関東よりも大阪付近で多く宣言されている。

委員＞ 甲賀市は環境に関する宣言を出しているのか。

事務局＞ 宣言は出していません。

委員＞ 初めて読んだ時には、何を指すのかが掴めなかった。市民目線として、何が変わるのか、私たちが何をしたらよいのかが分かりづらい。あえてふわっとした表現にしていると思うが、具体的な内容を入れた方が分かりやすいのでは。

委員＞ 宣言をしても何も動いていないのでは困ると思う。宣言文には入ってなくても、この審議会の中では、道筋を示してもらい、具体策は決めているというのでも良いかもしれない。しかし、あまり漠然としすぎると何をやりたいのかが分からない。ここには4つのおおよその内容は記載されている。

委員＞ 現在、野生動物を身近に感じており、住宅の周辺でも動物被害も確認できることから、動物との共生という表現は良いと思う。甲賀市らしいと感じた。

委員＞ 今までの市の取り組みが資料としてないので、宣言のみでは議論のしようがない。

宣言するだけであればこれでよいが、具体的な中身をつけ、宣言前と宣言後の取り組みをまとめたものがあればよかったと思う。皆さんが何をするのかを示すと分かりやすい。

委員＞ 温室効果ガスの多くを占めているのが事業活動であるが、それに関する言葉が本文中になく、最後の部分で市民・事業所・行政が一体と出てくる。行政からの支援や事業所自身の努力の部分がないように感じるので、事業所の部分を記載した方がよい。

具体的なこととして、ゼロカーボンと入れてはどうか。

会長＞ 宣言文としてはこれくらいのA4用紙一枚程度でよいと思うが、これとは別に、皆さんが取り組む具体策が分かるものがあればよいという意見だと思う。

委員＞ 宣言と具体策との関係が基本計画等に描かれていると思うので説明してほしい。また、今後の審議会スケジュールを確認したい。

事務局＞ 宣言のタイミングについては、6月の全国植樹祭の熱が冷めない間にしたいと考えています。具体策はどうかというご意見は当然だと思います。今年度は温暖化対策実行計画策定のための調査等の業務を委託し、来年度に計画策定を予定しています。具体策はそこに入ってきますが、それを待っているとかなり遅くなるので、まず宣言をしてから進んでいこうという考えです。今のところ9月までには宣言をしたいと考えています。

会長＞ 宣言文の内容をこの審議会でも何回議論できるのか。

事務局＞ 議会との関係により変更となりますが、あと1回程度となります。

委員＞ 基本計画に市としての思いが記載されており、この内容が網羅されていれば問題ないと思う。広く考えるのか、ゼロカーボンを突き詰めるのかはどちらも問題ないと思う。県内他市ではゼロカーボンに特化されているところが多いと思うが、この宣言になった経緯を教えてください。

事務局＞ 当初はカーボンニュートラルやゼロカーボンというタイトルを考えていたが、理事者から、一般の方には伝わりにくいのではないかという意見や、ゼロカーボンだけではなく、環境全体を考えたいという思いで、このタイトル案になっています。

委員＞ 産業界でも都市としても、ゼロカーボンはとても難しいことであると認識している。ゼロカーボンという名称をタイトルに入れなくて甲賀市は逃げているのではないかと思われてしまうのではないかと。もっと押し出すことで、みんながやるんだという意識になる。

会長＞ 環境未来都市宣言というよりはやはり抽象的に感じるので、具体的な名称にする方がよいというのであれば、審議会としてそういう意見でよいと思う。他の自治体でも環境未来都市という名称はあるか。

事務局＞ このような名称はあまりありません。気候非常事態宣言という名称があります。

会長＞ 気候非常事態宣言でも中身は分からない。自治体の宣言は、看板のようなもので、ある方向だけを示しているものと思う。それだけで意味があるという考え方

もある。

委員＞ 未来はこれから作っていくもので、ある意味どうにでもなる。循環等の言葉ではどうか。エネルギー・ごみ・子どもから大人など、再生・循環している。それが目に見えて分かるものがよい。例えば「∞」等のマークでもよいと思う。甲賀市の良いところを伸ばしていく内容が良い。未来につなげるための何か。

委員＞ ごみは私たちの生活に密接に関わっているし、子どもたちも分かりやすい。例えば「プラスチックごみゼロ宣言」という名称であれば、市民を巻き込んだ取り組みもしやすく、分かりやすい。未来につなげていくために何かをしようという思いになる。循環というのもよい。

会長＞ 宣言のタイトルをどうするか。ごみ・エネルギー・生物など色々ある中で、どの方向にするのかなど幅を決める方がよい。

委員＞ もともとはカーボンニュートラルから議論がスタートしているので、そこを外す訳にはいかない。

委員＞ 「再生可能エネルギーを軸としたエネルギーシフト」や「エネルギーと農林水産物の地産地消」とあるが、現在の甲賀市にはこれらが無いのに、どうもっていくのか。

会長＞ それは、これからやっていくもの。

委員＞ だからこそ、こういう宣言を甲賀市にやってもらわないといけない。

委員＞ ごみ問題や我々の生活、地産地消などこれら全部がゼロカーボンにつながる。すべてが結びついていることを市民に知ってもらわないといけない。プラスチックやごみなどに特化するのではなく、やはりゼロカーボン中心で考えていく方が、市民に伝わり、分かりやすいと感じる。山林や農地にしてもゼロカーボンにどうつながっているのは分かりにくい、その部分は今後、行政が啓発活動をしていかないといけない。だから、ゼロカーボンにしっかりと焦点を合わせて宣言した方がよい。

会長＞ ゼロカーボンとすると、ごみ問題はエネルギーに関わるので良いが、動物との共生はどのように関わりを持つか。

委員＞ 挑戦の前2つは分かるが、あとの2つは厳しくなる。その代わりに、事業所や産業の部分を入れられないか。「災害に強い」までいくと結びつきが分からない。それと、生活の中での目標。市民が何に挑戦するのか、何を取り組んだらよいのかを分かりやすく記載した方がよい。

会長＞ 森林は関わってくると思うが、動物は難しいかもしれない。

会長＞ 審議会としての方向性を考えたいと思う。宣言を広くとらえるのか、ゼロカーボンに絞るのか。各委員から意見を伺う。

委員＞ ゼロカーボンに絞る方がよいと思う。

委員＞ ゼロカーボンという言葉はCMでも使用され、テレビでも出回っていることから一定の認識はされているので、出した方が分かりやすい。その言葉を知らない子どもたちも、何だろうと興味を持ってもらえる。

委員＞ 結局、再生可能エネルギーによって市でお金が発生するようにしないとけない。エネルギー関係の単語はある方がよい。「未来の子どもたちにつなぐ」と本

文にあるのでタイトルに「未来」は不要。

委員＞ ゼロカーボンの方が分かりやすいと思うが、環境未来都市にも市長の思いがあるように感じるのでそれを尊重したいとも思う。

委員＞ ゼロカーボンはこれからの生活に直結するものなので、それでよい。

委員＞ 具体的にゼロカーボンと掲げる方がよい。それを補足するような行動宣言があればよい。

委員＞ 企業は2030年のゼロカーボンに向け進んでいる。市民レベルで考えると環境未来都市宣言でも良いと思う。その未来をどのように考えていくのかが大切だと思う。

会長＞ ゼロカーボン宣言が話題になる時期ならやってもよいと思うが、環境未来都市宣言としても話題にならない。どちらとも言い難い。

会長＞ 全体としては、環境未来都市よりも、内容がある程度分かるゼロカーボンの方が良いのではないかというが、審議会の意見となった。

これを受けて事務局で検討していただき、もう一度審議の機会があるので、そこで委員の皆様から意見をいただきたい。

5 連絡事項

事務局＞ 令和4年度の甲賀市の主な環境関連事業としては、まずカーボンニュートラルに向けた宣言を行っていきます。

次に、温暖化対策実行計画として、これまである事務事業編としての市役所の対策部分の改定に合わせ、区域施策編として市民・事業所含めた市全体の温暖化への取り組みについて、現在業者への発注準備をしています。この審議会からもご意見をいただき、令和5年度策定を目指して作りあげていきたいと考えています。

3点目に、高齢者のごみ出し支援制度です。高齢者の方の中にはごみ集積所まで家庭のごみを運び出すことができない方もおられることから、市で支援制度を構築し、夏頃から開始したいと考えています。

その他にも細かな事業がありますが、機会をみて進捗状況等を審議会にご報告させていただきたいと考えています。

事務局＞ 今後の審議会の予定ですが、温暖化対策実行計画に関して、8月に業者決定の予定ですので、そのタイミングで1回。その後2回と考えています。

宣言関係については、8月より早い段階で再度検討していただくことになると思います。

会長＞ 連絡事項について質問等あればお願いします。また、初めて委員になられた方もおられます。審議会や市に対しての意見や要望もあればお願いします。

委員＞ (なし)

○閉会あいさつ（職務代理者）

委員＞ 温室効果ガスを減らす活動だけでなく、私たちの生活を見直し、豊かな質としていくことが大切です。地方の課題を解決しながら、新しい地域の構築へとつな

がっていければと思う。事務局は、今回の審議内容を反映して次回開催をお願いしたい。